

# 権現山の大蛇丸

かすみがうら市

昔、権現山に大蛇が住んでいました。村人たちはこの大蛇を恐れ、権現山の主と呼んでいました。大蛇は時々山から下りてきては暴れ、民家や畑を荒らし回っていたので、村人たちはほとほと困り果てていました。  
ある日、志筑領主の三男・本堂保親が、権現山で鷹狩りをしようと、お供の者たちと共に鷹狩りの装束を身にまとい、馬にまたがり、城を出発しました。  
権現山の入り口に近づくと、馬が突然立ち上がり、驚いた様子で「ヒヒーン」と鳴きました。あわてて前を見ると、大蛇が道をふさいで横たわっています。そこで保親は、悪さをして村人たちを困らせているのはこの大蛇だと気づき、馬から飛び降り、



「この大蛇め！そなたの命も今日限りだ、覚悟しろ！」  
と言いながら、自慢の太刀を抜き、大蛇を一刀両断に切りつけました。その瞬間、不思議なことに空が急に暗くなり、雷が鳴り響き大雨が降ってきました。保親たちは狩りをあきらめ、仕方なく陣屋へ戻ることにしました。  
ところがその日の夜から、蛇の毒気に当たったのか、保親は熱を出して寝こんでしまいました。それからは陣屋でも、火災などの異変が相次ぎました。  
陣屋の者たちは「これは大蛇の祟りに違いない」と、八幡様へ祈願をし、太刀を奉納しました。しばらくすると、保親の熱も下がり元気になり、陣屋での災難も収まりました。

それ以来この太刀は「大蛇丸」と名付けられ、戦前まで、氏子総代が代々受け継いで保管していたと言われています。

〈参考文献〉千代田村の昔はなし(仲田安夫 著)  
※掲載事項には諸説あります。



「運ぶ」を支え、地域社会を笑顔にする

**ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社**

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <https://www.ibaraki-isuzu.co.jp>